

# 「くまの木」ヒトとムシの楽園プロジェクト

会報ムシプロ 6号

2017年8月



タマムシ (タマムシ科)

## 目次

- 1. 7月活動報告 . . . . . 2
- 2. ムシプロだより . . . . . 4
- 3. 自然の愉しみ方 (夏) . . . . . 5
- 4. 事務局より . . . . . 6
- 今月の表紙 . . . . . 6

## 1. 7月8日（土）の活動報告

2017年第三回活動を7月8日（土）に行いました。スタッフ5人を含めて14人が参加しました。

「ビオトープの整備」と「県民の森」を散策しました。

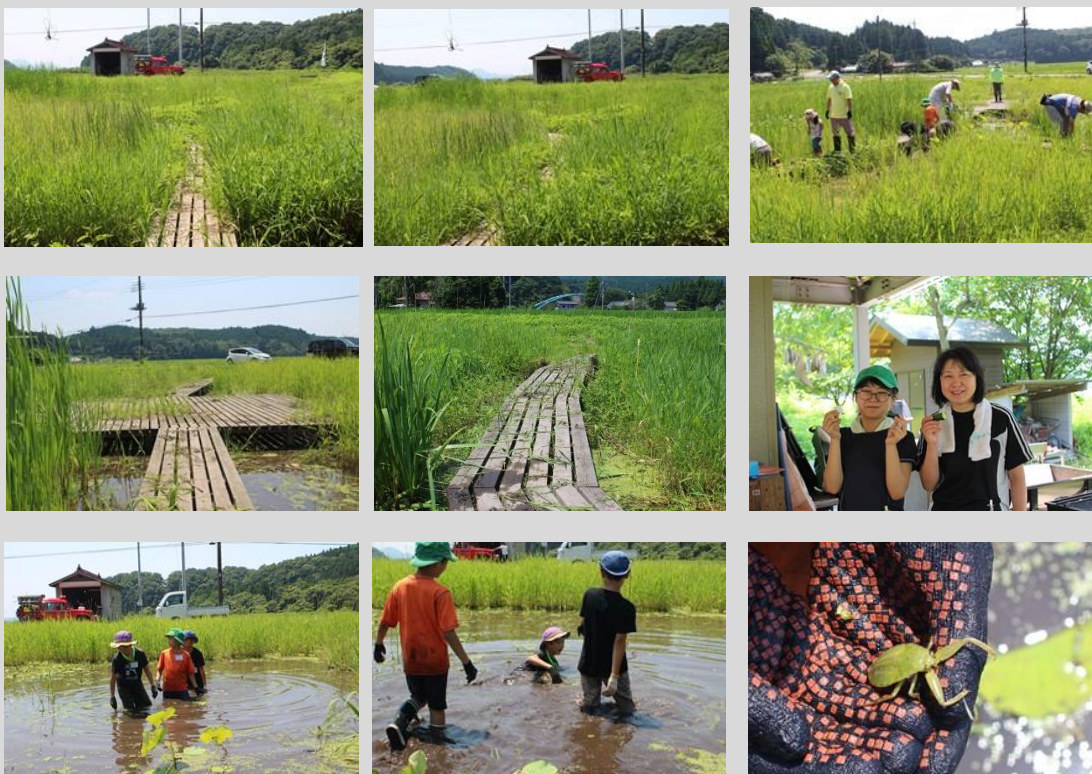
### ■ ビオトープの整備

第二ビオトープの雑草取りを行いました。雑草取りは、観察用に設置された木道の周りを中心に行いました。とても陽射しが強く適度に休憩と水分を補給しながら雑草を素手で丁寧に抜き取りました。雑草に覆われていた木道が見事に姿を現しました。

子供たちは、雑草の中から飛び出してくる「ミズカマキリ」「タガメ」を見つけて大いに作業を愉しみました。服の汚れを気にすることなく思いっきり水に浸かっている様子を見て羨ましく思いました（笑）。

タガメの幼虫（2齢～4齢）を数頭採集し、ビオトープでタガメが繁殖していることが確認できました。ビオトープの成果の一つです。

8日の活動の様子(ビオトープ)





## ■ 栃木県民の森散策

午後から栃木県民の森へ移動し「宮川溪谷歩道」を散策しました。「宮川溪谷歩道」は、川に沿って整備された散策路で約1時間のコースです。

自然林の葉が太陽光線を遮り、さらに川に沿って流れる風と鳥の囀りが私たちに涼しさと心地よさを感じさせてくれました。

また、野鳥観察に多くの方が訪れていて、参加者は、散策路の途中で野鳥観察の人と出会うとしっかりと挨拶を行い、観察の邪魔をしないように静かに通り過ぎました。自然は、みんなで愉しむもの・共有するものということを実感し、実践しました。

8日の活動の様子(県民の森)



散策路入口



キビタキ



サンコウチョウ



※キビタキ、サンコウチョウの画像は、スタッフの吉田さんが、活動の翌日県民の森で撮影したものです。

貴重な画像、ありがとうございます。

8日の画像は、以下のアドレスをクリックしてパスワードを入力してください。

<https://opa.cig2.imagegateway.net/s/cp/BdF2vzHzCap>

パスワードは、20170708 です。

## 2. ムシプロだより

### ① スタッフの近況

6月から9月の土日には、あちこちの自然観察会の講師にと声をかけていただいています。生き物の区別については、アマチュアレベルですが、生き物の生き様や進化を子ども達に分かりやすく伝えることについては、プロに負けないつもりです。なんて、脳みそが子どもと同じってことだけ。



生き物大好き！  
伊村です。

生き物は何でも好きですが、特に小さい昆虫に魅力を感じます。ガムシよりゴマフガムシ、アメンボよりカタビロアメンボ、スズメガよりホソガ・・・。

小さな生き物の視点になると、森も水辺もまったく別世界で、ちょっとした水たまりの中でさえ、大きな湖のように広がりがあるのだろうかあと空想が広がります。そんな小宇宙で生きている虫たち。なんかわくわくしませんか？

都会に住んでいて、身近に自然がないという方には、都市公園の地面観察がお勧めです。特にヒシバツタやノミバツタは、観察すると超おもしろいですから！

ヒシバツタは、メスに向かって、オス達が羽根を震わせながらゆっくり近づいていきます。でもほとんどの場合、途中で他のオスとケンカになって遠くにジャンプ。メスは何事もなかったようにすましたまま。これが強いオスを選び、強い子孫を残す仕組みなのですね。

行動を観察しなくても、個体によって色や模様が変化に富んでいるのも魅力。見つけ次第写真を撮って、ヒシバツタのファッションカタログを作ってみてはいかがでしょうか？

ツヤツヤ黒いごま粒のようなノミバツタは、土の表面に土や砂の粒でナント巣を作ります。これはぜひ飼育して観察しましょう。(写真・文 伊村 務)



ヒシバツタ



ヒシバツタ



ノミバツタ



### 3. 自然の楽しみ方（夏）

#### ● ムシたちの夏（樹液をめぐる戦いⅠ）

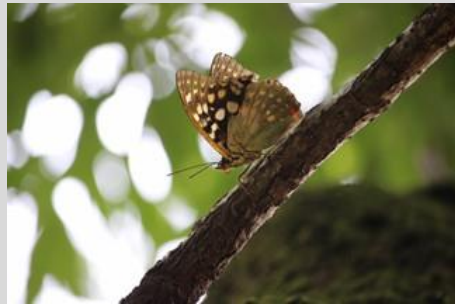
夏になるとクヌギ、コナラ、ヤナギに樹液を提供する昆虫酒場が開店する。昆虫酒場には樹液を求めてカブトムシ、クワガタムシ、スズメバチ、オオムラサキなどタテハチョウの仲間が集まる。樹液が良く出ている場所は、限られているため必ず争いがおきる。力の強い者から良い場所を確保していくことになるが、今回は力の弱いオオムラサキの戦い方に注目してみたい。

オオムラサキは、タテハチョウの中でもっとも大きく、国蝶に指定されるほどの立派な蝶だ。オオムラサキは、縄張りに侵入してくる鳥を追いかけるほど強気の持ち主だが昆虫酒場では戦わない戦略をとる。よく見ると二つのタイプがある。

一つ目は、ひたすら待つタイプだ。カブトムシ、クワガタムシの戦いを横で眺めていて場所が空くのを待っているのだ。二つ目は、樹液の出ているところから距離のあるところに止まり、樹液の出ているところへ静かに歩いて近づいていく。近づくと翅をたたんで長い口を伸ばして樹液を頂くのだ。カブトムシ、スズメバチは、樹液に夢中になっていて静かに近づいてきたオオムラサキに全く気づかないのだ。体が細いことを見事に活用している。まるで、渋滞で列を作っている車の隙間をすり抜けていくバイクのようだ。

樹液の出ている木を見つけたらすぐにお目当てのカブトムシ、クワガタムシを採らないでじっくり樹液をめぐる戦いを見てほしい。

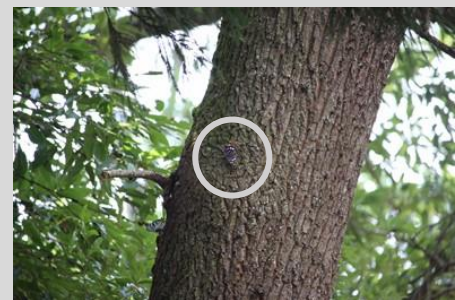
（写真・文 西野 孝法）



昆虫酒場の場所が空くまで待つオオムラサキ



① 昆虫酒場から遠くに止まる



② 昆虫酒場の近くまで静かに歩いて近づく



③ 翅をたたみ長い口を伸ばして樹液を吸う

## 4. 事務局より

会報の「表紙」と「自然の愉しみ方」で紹介した画像をイメージゲートウェイに登録しています。Wordに貼りつけてある画像より綺麗です、ご覧ください。アドレスは以下のとおりです。パスワードは、必要ありません。

<https://opa.cig2.imagegateway.net/s/cp/DMCYuTBGLSE>

画像はダウンロードできます。

2017年8月1日発行

発行： くまの木ヒトとムシの楽園プロジェクト

編集責任者： 西野 孝法

〒262-0026 千葉県 千葉市 花見川区瑞穂3-3-26

TEL: 090-9327-5606

Eメール：[harukan@ac.auone-net.jp](mailto:harukan@ac.auone-net.jp)

### 今月の表紙

#### タマムシ (タマムシ科)

- ・年1回発生、7月中旬から下旬が最盛期
- ・日本の美しい昆虫の代表、翅の美しさから国宝「タマムシの厨子」の装飾に使われている。
- ・お昼の12時前後からエノキなどの樹上を飛び始める。飛ぶのは得意だ。一本のエノキの周りを何十頭ものタマムシが乱舞する様子は、実に見事であり、神秘的でもある。
- ・メスは、エノキ・桜などの広葉樹の生木の割れ目など隙間に産卵管を差込み産卵する。産卵後、粘液を出して卵を保護する。



タマムシは、採集及び飼育の難易度が高い昆虫の一つだ。採るには、ひたすら低いところを飛ぶものを待つことだ。8月に入ると産卵のためにメスが比較的低いところを飛ぶようになるため採集の確率が上がる。今でも、低く飛ぶ個体を見つけると心臓がドキドキする。さらに採集に成功すると心臓が口から飛び出るかと思うほど興奮する(笑)。

飼育では、オスで一週間程度、メスは三週間程度活かしておくことができる。採集と飼育方法の詳細については、別の機会に述べたいと思う。(写真・文 西野 孝法)